

(1) 四國の鐵道線路圖。實線は營業線、點線は建設線である。

## 建設中の土讃線に就て

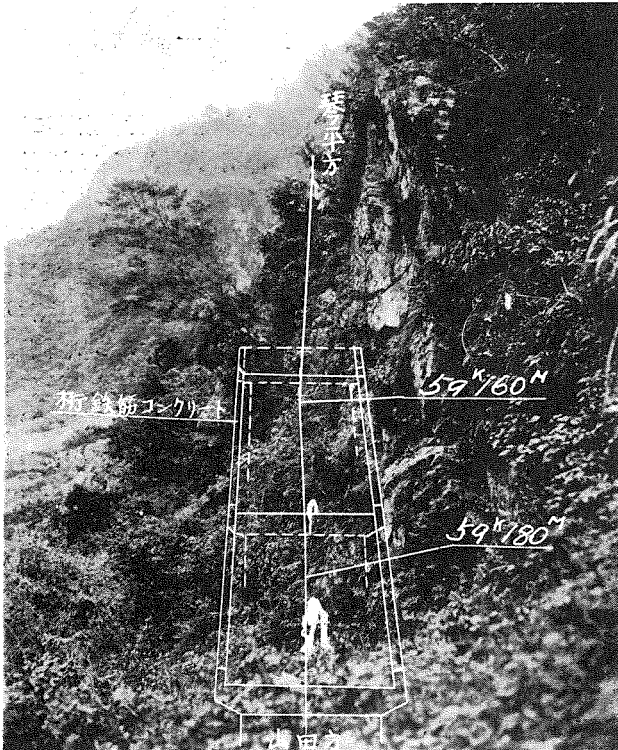
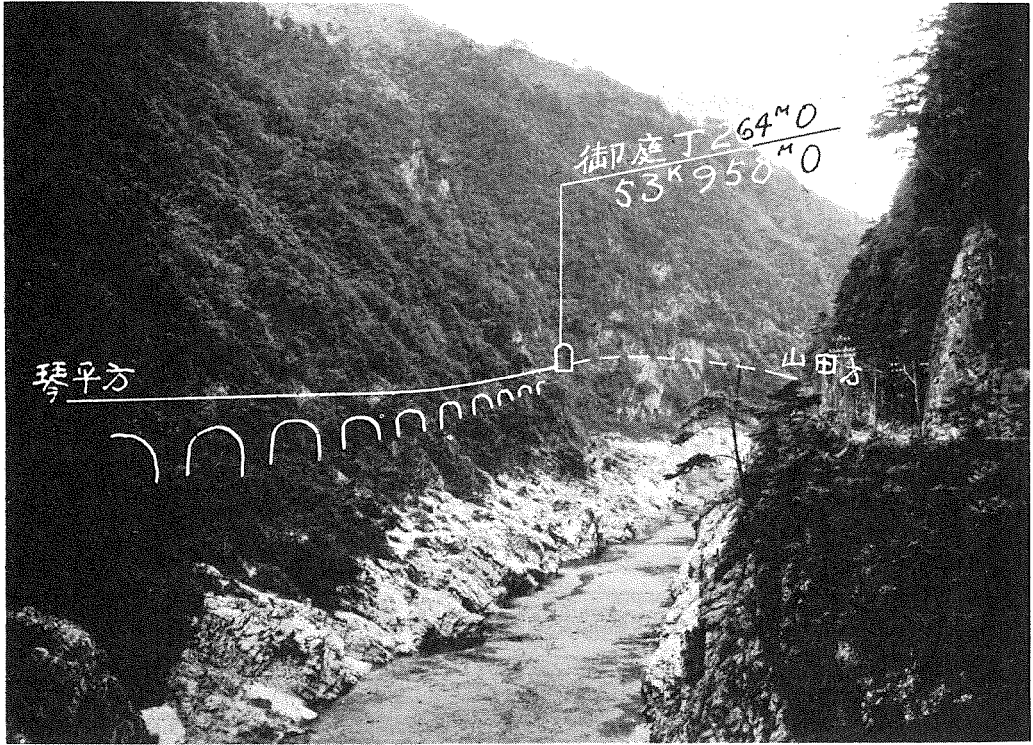
鐵道省建設局工事課長 竹 股 一 郎

土讃線琴平・池田・山田間の鐵道は、延長101杆1分であつて、琴平・東豐永間60杆1分を北線とし、土佐山田・東豐永間41杆を南線とし、琴平方は大正九年三月、土佐山田方は大正十五年二月にそれぞれ工事に着手し、琴平・三繩間<sup>3</sup>杆4分と、土佐山田・大杉間24杆5分は既に營業を開始してゐる。殘餘の40杆5分は目下工事中で、この間の線路の狀勢は大略次の通りである。

### 土 讃 北 線

徳島縣三好郡三繩村字中西地内既設三繩停車場を出で、左曲して城倉山隧道(延長580米)を穿ち、右轉して同村字漆川に於て吉野川を渡るに延長171米<sup>8</sup>/<sub>4</sub>の第一吉野川橋梁、鉸桁16米一連、22米<sup>3</sup>二連、31米<sup>5</sup>一連及び下路式構桁77米<sup>5</sup>一連を以てし、直ちに永見山隧道

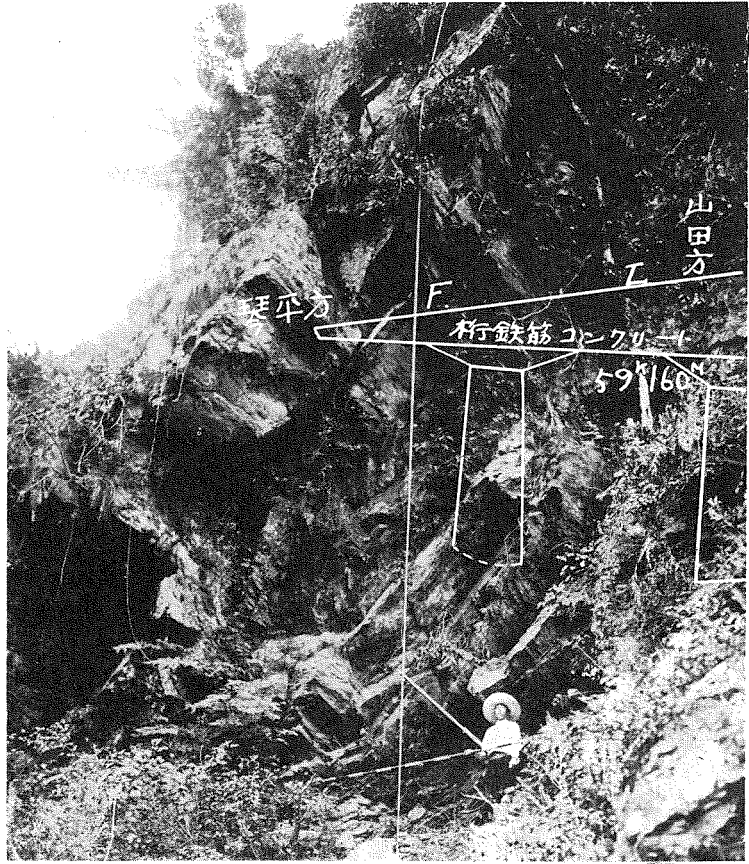
(延長520米<sup>2</sup>)を穿ち同郡山城谷村字猫坊に出で、是より約5杆の間國道と併行して吉野川左岸に沿ひて溯り、同村字大川持に山城谷停車場(琴平起點44杆260米)を設置し、左轉伊豫川及二十三號國道を渡るに、延長299米<sup>2</sup>/<sub>36</sub>の伊豫川橋梁、鉸桁16米<sup>9</sup>一連、下路構桁46米<sup>9</sup>一連を架設し、吉野川左岸山腹を、國道に沿ひ左折右轉しつゝ漸上し、七畑山隧道(延長188米<sup>5</sup>)を貫き、青石谷に徑間19米<sup>2</sup>の鉸桁を架し、崖下を進み犬ノ江山隧道(延長93米<sup>0</sup>)を穿ち、國道と並行して吉野川左岸の崖際を匍匐し、三名村字白川口に延長113米<sup>5</sup>/<sub>9</sub>の白川橋梁、上路構桁47米<sup>1</sup>一連、鉸桁19米<sup>2</sup>二連、8米<sup>2</sup>三連を架し、是より嶮崖絶壁の間を縫ひて、所謂小步危の勝を過ぐるに下山隧道以下大小六個の隧道 この總延長515米を穿ち、三名村字下西字に西宇停車場(簡易、



(2) 土讃北線のうち、奇巖累重峻崖絶壁をなす所謂大歩危の難所で、白線は線路の位置、その下の数次のアーチ型はコンクリート擁壁を示し、点線の部分が一枚岩を貫く26米の隧道の位置である。

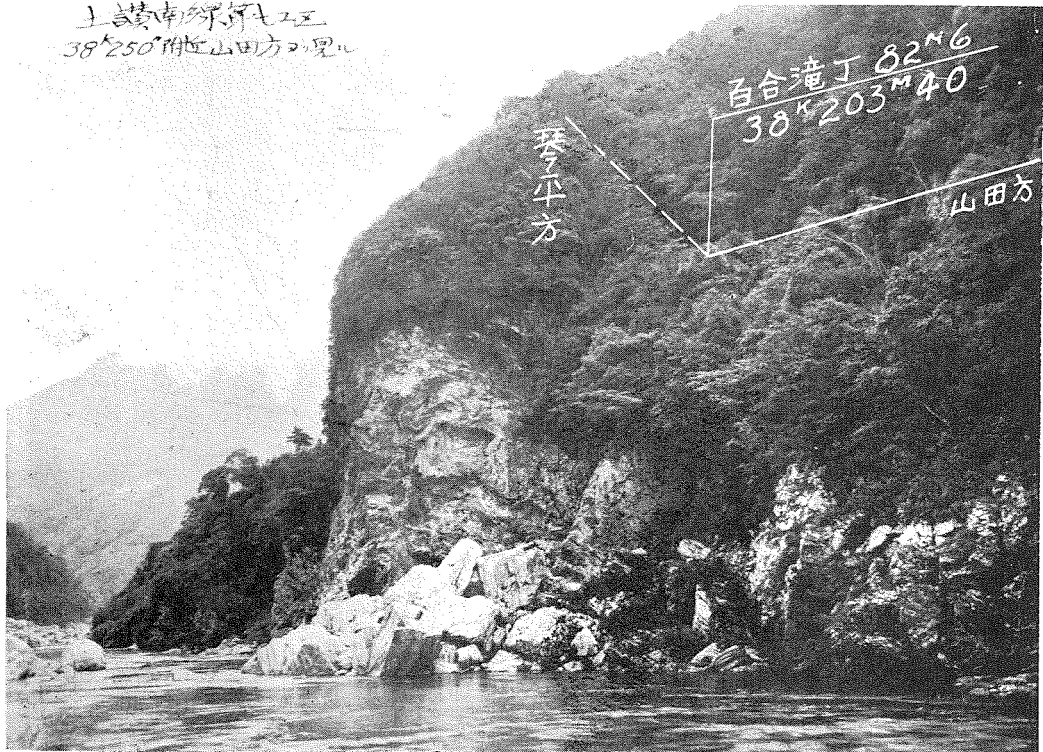
(3) 土讃北線、奇岩屹立せる中を桁鉄筋コンクリート橋で跨ぐ處で、支間約4米のものを10連、こゝに造る。

(4) 寫眞(3)に同じ。



(5) 土讃北線大歩危附近の阿波赤野停車場の設置點で、白線が線路の方向を示してゐる。對岸(向つて右)上方の人家の見える處が縣道である。





(4) 土讚南線吉野川河岸の巨岩突出せる部分に80米の隧道を貫く個所で點線がその位置である。

琴平起點49杆570米)を設置し國道に並行して進み、國道及吉野川を横斷するに延長236米62の第二吉野川橋梁(下路構桁77米5一進、鈹桁19米2八連を架し、美馬郡西祖谷村に入り右轉し是より峻嶮なる吉野川右岸を縫ひて所謂大歩危おほいぼひの勝を過ぎ、同村字德善に阿波赤野停車場(琴平起點55杆390米、寫眞5)を設置し更に峻嶮なる川岸を匍匐し、此間の峻嶮を過ぐるに大小三十六個所の隧道(此總延長2杆365米4)を穿ちつゝ、徳島・高知の縣界を越え、高知縣長岡郡東豐永村字岩原地内(琴平起點60杆100米、土佐山田起點41杆00米)に至りて終り、土讚南線に接續する。

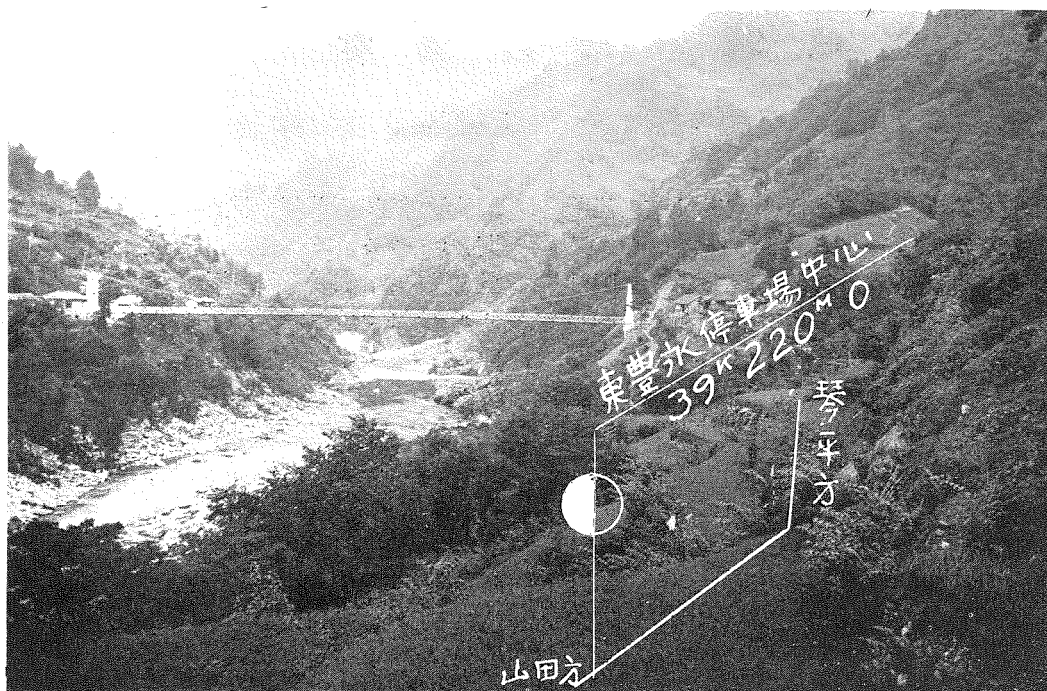
### 土 讚 南 線

高知縣長岡郡大杉村字中村大王地内の既設大杉停車場を出で、右曲して穴内川を渡り、直ちに安戸隧道(延長277米24)を穿ち、進みて延長120米07の第六穴内川橋梁、鈹桁12米9

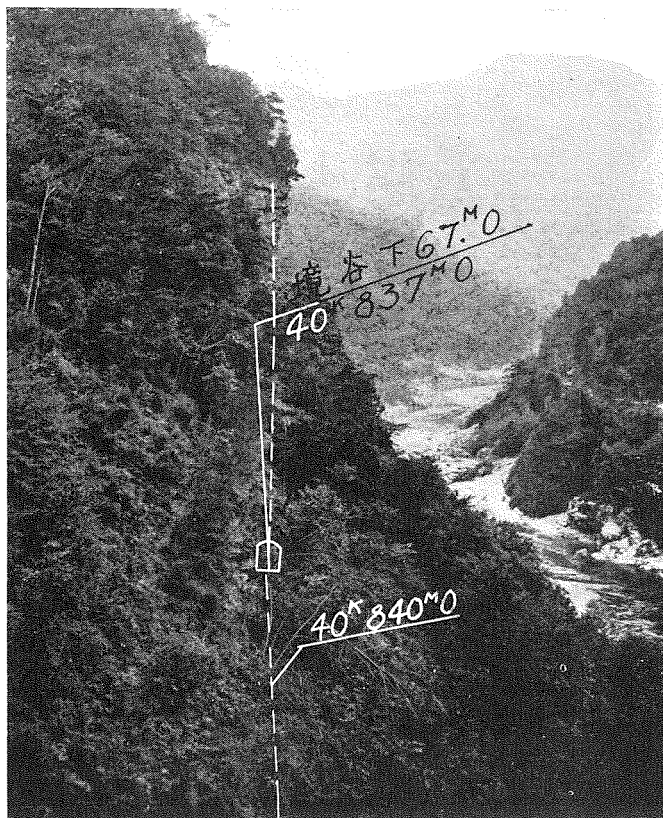
六連、19米2二連を架し、穴内川に沿ひ北進し同村字穴内に土佐穴内停車場(土佐山田起點28杆970米)を設置し、西豐永村に入り宇船戸に大田口停車場(土佐山田起點31杆570米)を設置、尙進んで東豐永村字下ノ土居に下ノ土居停車場(土佐山田起點35杆180米)を設け、吉野川の右岸峻嶮なる崖際を填鑿して進み、同村字筏木の狹隘なる耕圃の中に豐永停車場(簡易、土佐山田起點39杆240米、寫眞7)を設置し、之より尙右岸の岩壁を匍匐して進み、同村字岩原地内(土佐山田起點41杆000米、琴平起點60杆100米)に至りて終り、土讚北線に接續する。(以上)

### 大歩危小歩危の奇勝

阿波池田より南西四里乃至五里半。土佐街道に沿うた吉野川の奇勝で、兩岸高く壁立し、流れ狭くして低く恰も井底を走るが如く、舟を雇つて川を下れば水鳴り石動き宛然柳州八記の中に在るが如き思ひがある。山の奇、水の妙四國第一の勝觀である。



(7) 土讃南線、東豊永村字筏木の狭隘なる耕圃の中に設置さるべき東豊永停車場の位置で白線が線路の六略の方向、對岸に縣道がある。



(8) 土讃南線の徳島縣と高知縣との縣界附近で急峻なる河岸の突出部に67米の隧道を穿つ、點線はその方向である。(寫眞中境谷下とあるは境谷丁の誤・編者)